

# 嬉野市庁舎の今後について

令和3年4月

# 市としての方向性

「嬉野市庁舎のあり方検討委員会」報告を受け、ゼロベースで検討



## 最終的な庁舎整備方針

- 現行の2庁舎体制から行政機能を集約し **1庁舎体制**へ移行
- 新庁舎の場所は **現嬉野庁舎周辺の公有地**とする
- **現塩田庁舎**は、地区住民の利便性を考慮し **解体せず利活用**する

# 検討のポイント

- ボランティアセンターとの連携等を考慮した

⇒ **災害対応の拠点として**

- 財政上の将来負担軽減

⇒ **経常経費など長期のトータルコストも考慮**

- 市の業務改革と生産性向上

⇒ **災害対応や新たな行政ニーズへの対応**



## 嬉野市の一体的発展を目指す

～ まち全体を俯瞰した空間用途の見直しへ ～

# 近年の災害対応の教訓

- 3年連続の大雨特別警報
- 近隣市町の大規模被災

## 課題

- 嬉野庁舎の耐震強度不足

⇒ 震度5強で「**倒壊**の可能性」

- 塩田庁舎の孤立化の危険性

⇒ 尋常ではない雨量が**常態化**

「50年に1度」が  
毎年起こっている！

# 自然災害と庁舎

～ 年々激甚化する災害 ～



2016年 熊本地震 宇土市

前震で亀裂 本震で庁舎の上層が損壊  
防災無線は広域消防本部から遠隔操作



2019年 台風19号 宮城県丸森町

周辺が浸水して孤立 2日間継続  
通信設備故障 行政手続き不能に

**庁舎の被災は、復旧・復興に大きな遅れに**

# 公共施設全体の計画の中で

- 公共施設等総合管理計画が示す「不都合な真実」

⇒ 40年後に **150億円** の財源不足  
施設の統廃合は避けて通れぬ道

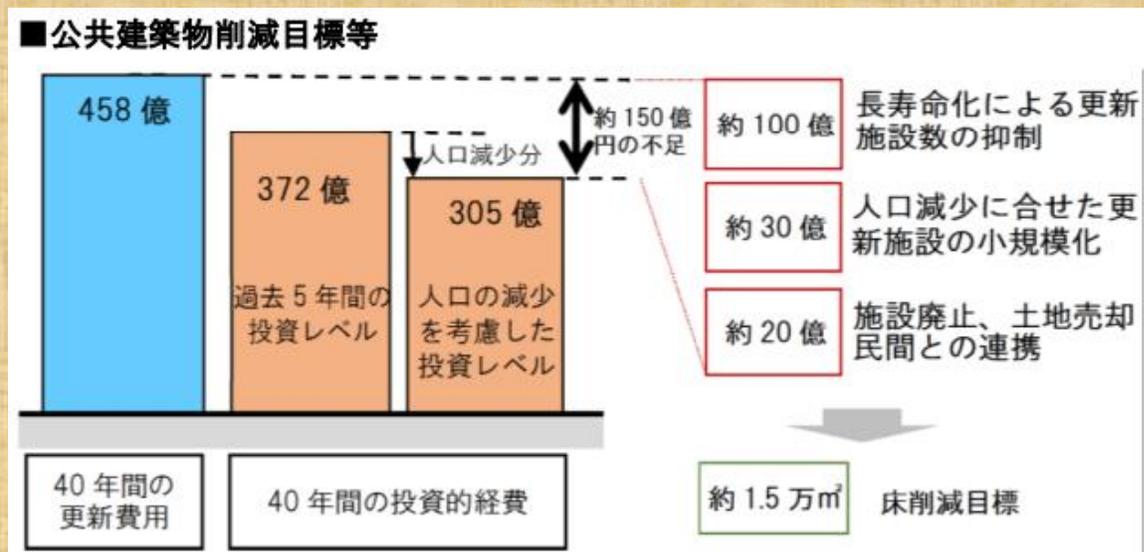
- 将来負担を考慮して

重複人件費、庁舎間移動コスト

年間 **5,550万円**



**2庁舎維持費の上に22.2億円が加算**



# 最優先するべきは小中学校の存続

・3月議会「絶対に**学校再編しない**宣言」

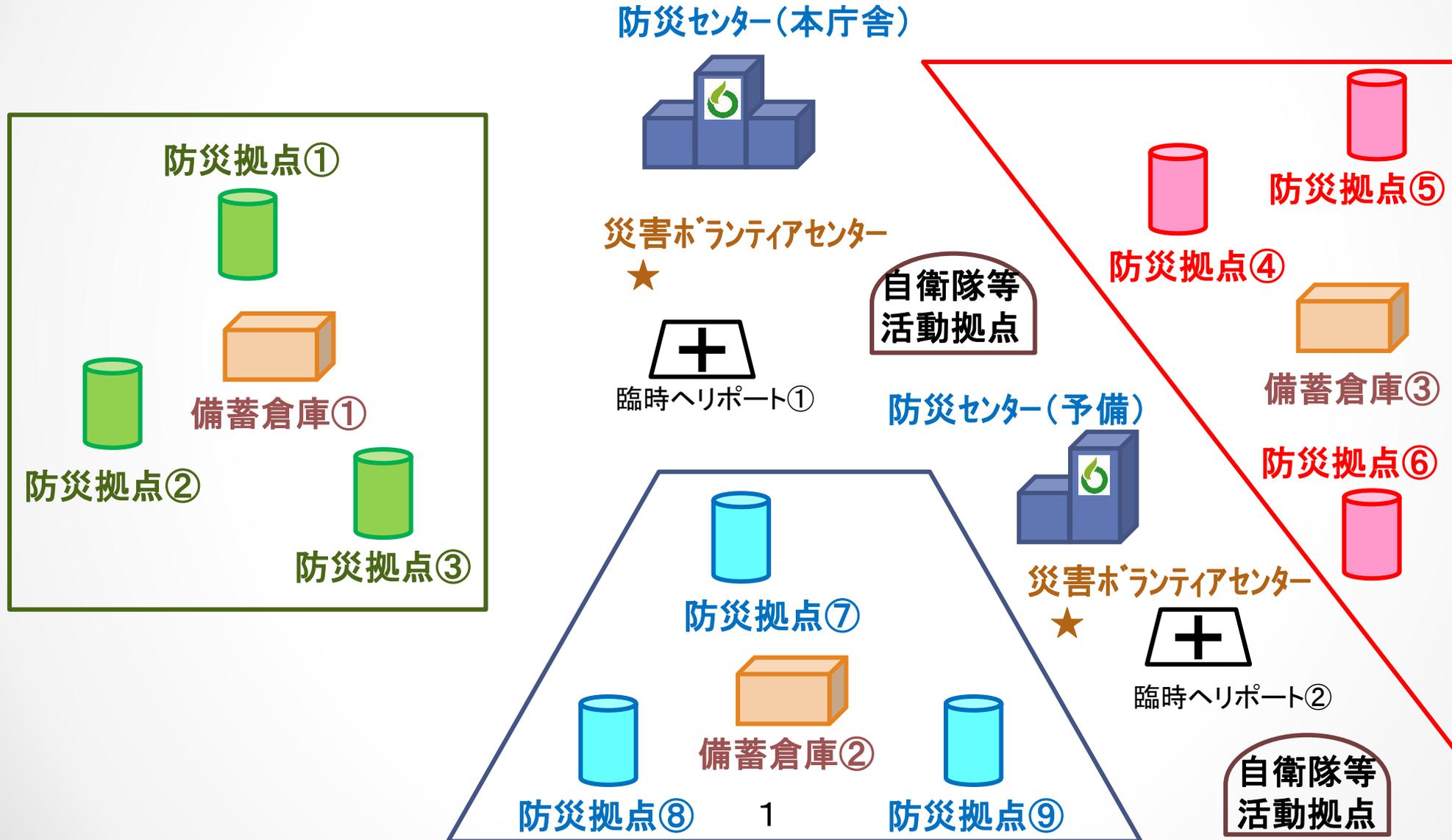
- ⇒子どもが地域で学ぶ権利
- ⇒地域で子どもを育む先人の知恵
- ⇒地域防災拠点としての機能

- 子どもたちの学びやを守る
- 地域コミュニティ活動の拠点を守る
- 身近な避難場所確保で生命を守る

**そのためにも踏み込んだ改革が必要！**



# 嬉野市防災全般体制のイメージ



# 懸念に寄り添い、より便利に

- 窓口に来なくても手続きが可能なシステムへ

⇒ 「電子申請」「コンビニ交付」の推進



- 「たらいまわしゼロ」 何度も足を運ばず完結

⇒ おくやみ手続きワンストップ化

- 公共交通網の大幅見直し

⇒ 公周辺部から各拠点へのアクセス見直し

# 塩田庁舎利活用でさらなる飛躍を

- ・ 地方への**人の流れの加速**を見据えて

⇒合併後初の社会増まであとわずか

- ・ 現塩田庁舎周辺を**文教・子育ての重点拠点**としてゾーンニング

「周辺の図書館、歴史民俗資料館や公民館と保健センターといった施設を移設したり、市民の広場として活かしていくといった考えもある」(検討委員会の自由意見より)

- ・ 子どもセンターの機能強化
- ・ 高齢者サロン、介護予防・健康づくり拠点
- ・ シュガーロード・「塩田津」観光との連動